



笠間稻荷神社◎社報

胡  
桃  
る  
み

講中を訪ねて



## ごあいさつ

私たち日本人のくらしは一年を単位として、その始まりと終わりの時期を特に大切にしながら過ごしています。そして繰り返し訪れる季節のように、毎年巡ってくる改まつた新しい年の下で生活が始まり、続けられています。その一年を六月と十二月の半年ごとに区切りをつけて執り行われる神事が大祓です。氏子崇敬者の皆様には我が国最古の祓いである中臣式の夏越の大祓により半年間の過ちや穢れを祓い清めて、心身ともに本来の清らかで正しい姿に立ち返つて残りの月日をつつがなく過ごしていきますよう祈念致します。

笠間稻荷神社では春・夏・秋・冬と四季折々の祭りが斎行されています。祭りは神様と人々との交流を表現する儀礼で、神様にご加護を願う祈りと感謝を捧げるために行われます。下半期の祭事につきましては別の紙面に詳しく掲載しておりますので、ぜひご高覧の上ご参拝かたがたご参列いただき、稻荷大神様の弥増すご加護をお受け下さい。

さて、未曾有の被害をもたらした東日本大震災から三年余りの歳月が流れ、この間多くの皆様からお寄せ頂きましたご淨財により大部分の修繕を終えることができましたが、最後の箇所として大鳥居の再建が残されています。震災後もしばらくは強い余震が続き、ご参拝者の安全に配慮して先延ばしの形となつておりましたが、ようやく落ち着きを取り戻した現在は、何としてもその再建に全力を尽くして臨んで参りたいと思っております。鳥居は神社の象徴的な存在であり、世俗的な世界と神聖な領域の境に建てられる神門で、邪惡なものが入らないようにするための役割を持つています。神様の下へと進んでいく入口となります鳥居の再建に向け、引き続き皆様方のご奉賛、ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

笠間稻荷神社 宮司 塙東男

# 笠間稻荷神社復興奉賛会



未曾有の大震災より二年半が経過し、ご崇敬者皆様のご協力により復興工事も順調に進み、ようやく元の状態に戻りつつは有りますが、この事業は多大な資財を要し、未だ完全復興には至らず、目標とする奉賛額にも達してはおりません。

皆様の信仰の場として一日も早い復旧、復興が出来ますよう、全国ご崇敬者皆様の心からなるご奉賛を仰ぎたく、格別なるご支援とご協力を願い申し上げる次第でございます

## ◎ご奉賛について

一、皆様からの奉賛金は確定申告をする事により財務大臣が指定した「指定寄附金」として、所得税や法人税の優遇措置が受けられます。

一、ご奉賛は、ご参拝のおりか郵便振替、指定取扱い銀行振り込みのいづれでも結構です。

一、ご奉賛戴きました際には、早速大神様にご奉告申し上げ、芳名簿に記し、ご神前に献納し永く顕彰致します。

## ◎募集目標金額

三七一、三四八、〇〇〇円

## ◎振込先のご案内

### 郵便振替の場合

口座記号番号

〇〇一三〇・二・五九六一二四

宗教法人笠間稻荷神社復興奉賛会

### 指定銀行振込の場合

常陽銀行笠間支店

(普)一五〇六四四八

宗教法人笠間稻荷神社復興奉賛会

指定寄附金 代表役員 城 東男

## お問い合わせ先

笠間稻荷神社 復興奉賛会  
TEL ○二九六一七三一〇〇〇一

# 祭事予定七月

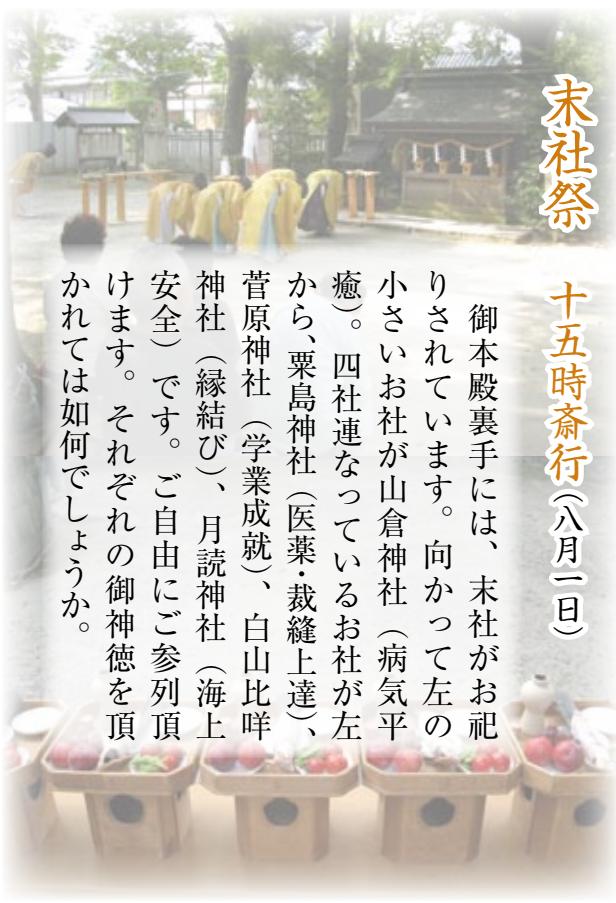
二十六日 旧大祓式



## 末社祭

十五時斎行（八月一日）

御本殿裏手には、末社がお祀りされています。向かって左の小さいお社が山倉神社（病気平癒）。四社連なっているお社が左から、栗島神社（医薬・裁縫上達）、菅原神社（学業成就）、白山比咩神社（縁結び）、月読神社（海上安全）です。ご自由にご参列頂けます。それぞれの御神徳を頂かれては如何でしょうか。



# 祭事予定 八月

一日 本社御田植祭  
事比羅祭

末社祭

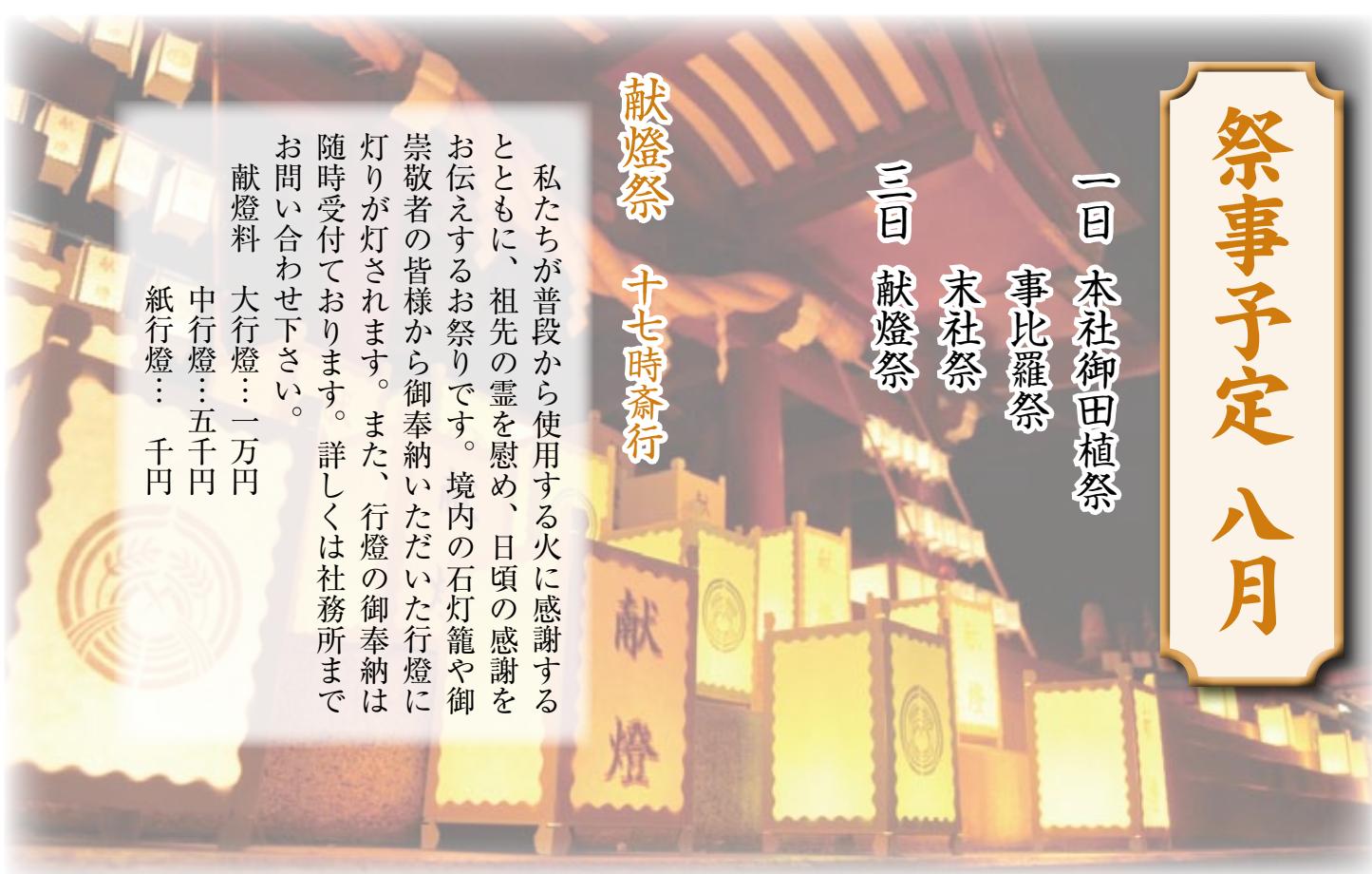
三日 献燈祭

## 献燈祭

十七時斎行

私たちが普段から使用する火に感謝するとともに、祖先の靈を慰め、日頃の感謝をお伝えするお祭りです。境内の石灯籠や御崇敬者の皆様から御奉納いただいた行燈に灯りが灯されます。また、行燈の御奉納は随時受付ております。詳しくは社務所までお問い合わせ下さい。

献燈料 大行燈：一萬円  
中行燈：五千円  
紙行燈：一千円



# 祭事予定 九月



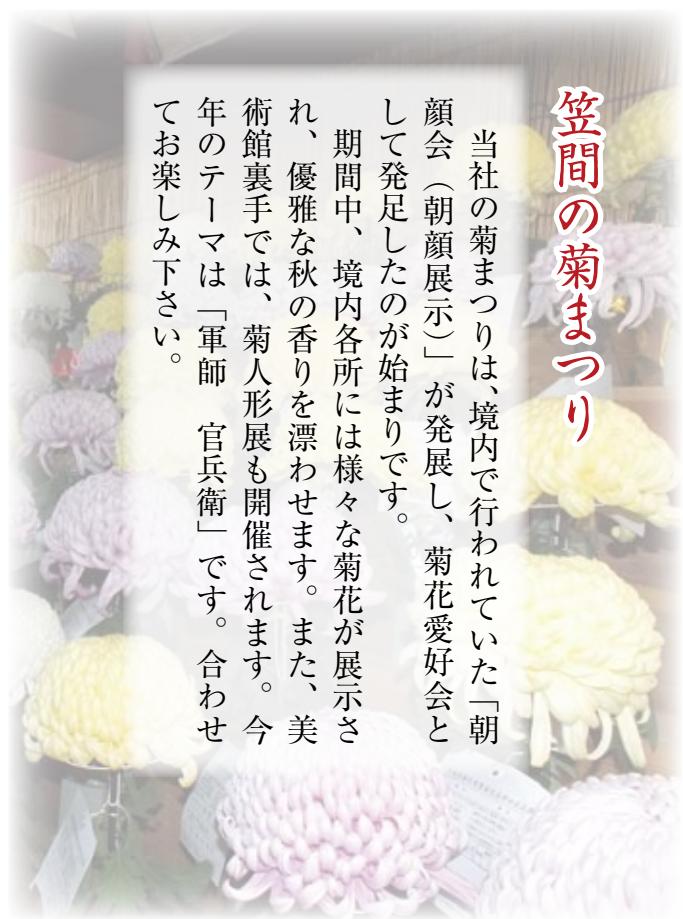
# 祭事予定 十月



## 笠間の菊まつり

当社の菊まつりは、境内で行われていた「朝顔会（朝顔展示）」が発展し、菊花愛好会として発足したのが始まりです。

期間中、境内各所には様々な菊花が展示され、優雅な秋の香りを漂わせます。また、美術館裏手では、菊人形展も開催されます。今年のテーマは「軍師 官兵衛」です。合わせてお楽しみ下さい。

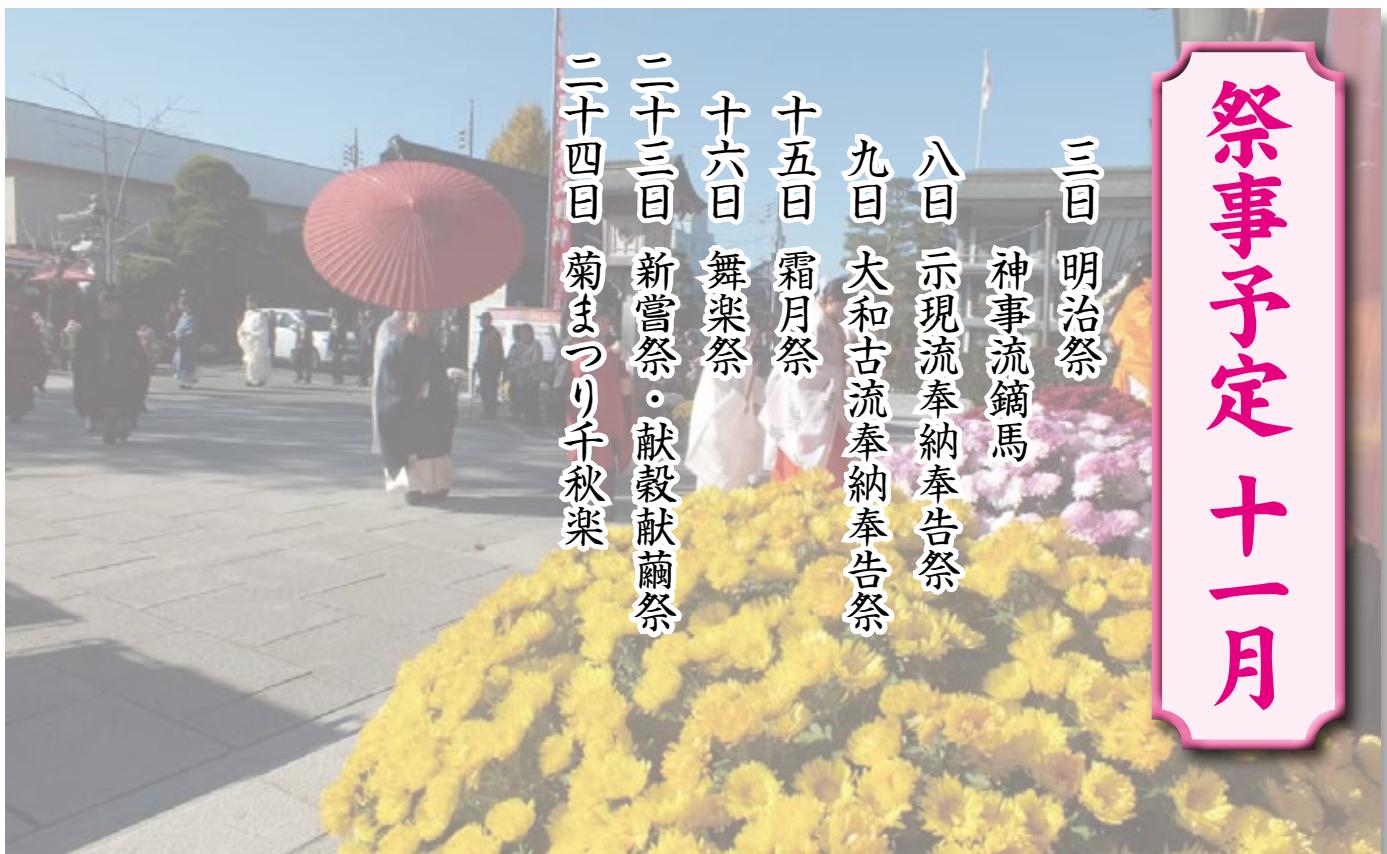


笠間稻荷神社境内に祀られています  
月読神社のお祭りで旧暦の八月十五日  
に斎行致します。中秋の名月を観賞す  
る風俗は、平安時代、中国より伝わり  
貴族の間に取り入れられ、しだいに武  
士や町民に広まりました。農民の間で  
は農耕行事と結びつき、収穫の感謝祭  
としての意味を持つていました。

中秋祭 十六時半斎行

二十三日 秋季皇靈祭  
八日 中秋祭  
小笠原流弓馬術奉納式

# 祭事予定十一月



三日 明治祭

神事流鏑馬

八日 示現流奉納奉告祭

九日 大和古流奉納奉告祭

十五日 霜月祭

十六日 舞楽祭

二十三日 新嘗祭・献穀献繭祭

二十四日 菊まつり千秋楽

## 神事流鏑馬

十時／十四時

弓馬術礼法小笠原教場一門をはじめ、氏子や古武道振興会の有志、地元の小学生らの奉仕のもと行われます。境内での安全祈願祭の後、笠間小学校前にて斎行されます。ぜひご覧下さい。

## 舞楽祭

十時／十四時斎行

境内に舞殿を設け、雅楽の演奏に合わせて舞人が神前に舞を奉納します。

### 【曲目】

神 楽「浦安の舞」「悠久の舞」「豊栄の舞」

祭祀舞「朝日舞」

舞 楽「迦陵頻」



# 祭事予定 十二月

一一二二日 御火焚串炎上祭  
一一二三日 天長祭  
一一二八日 鹿島祓  
三十一日 大祓式



## 大祓式

大祓式とは、毎年六月の晦日と十二月の大晦日に斎行されます。十二月の大祓式は「年越の大祓」とも呼ばれ、私たちが日常生活を営む中で無意識のうちに犯した過ちや、触れた穢れを人形に移して、心身共に清らかになつて新年を迎えていただく神事です。

## 鹿島祓

「鹿島祓」は当神社独特の祓具を用いて行うお祓いです。現在の宮司家が鹿島神宮より笠間に迎えられた際に鹿島神宮の祭式を当社にもたらしたことによる起源します。御本殿をはじめ拝殿以下社務所各部屋に至るまで祓具を用いてお祓いします。



# 笠間稻荷神社日誌

平成二十六年

赤字：祭典  
青字：結婚式  
黒字：講中参拝  
緑字：行事  
講中参拝・正式参拝

## ◆一月

- 一日 歳旦祭
- 高梨講・八千代講
- 藤井講・赤坂講
- サンツアー海上営業所
- 下野小山須賀笠間稻荷講
- 二日 元始祭
- 茨城日産自動車株
- 小松稻荷講
- 五日 鉾始祭
- 野尻笠間講・明誠講
- 海上芋苗組合・根崎解体工事株
- 七日 昭和天皇遙拜式
- 国分建設株・笠本笠間稻荷講
- 八日 J R水戸鉄道サービス株
- 九日 茨城綜合警備保障株
- 十日 初事比羅祭
- ヤマト運輸株茨城主管支店
- 十二日 東毛敬神講・穂波会
- 株横山喜惣治商店
- 嶋田商会・株野上運輸
- 十三日 キヤラエーピー株
- 十四日 尖閣諸島安全祈願祭・繭玉飾り
- 下野小山須賀笠間稻荷講
- 十五日 古札炎上祭
- 株秋田土木
- 十八日 麻生笠間講
- 十九日 石井工業信会・柏崎講
- 二十二日 御本殿輿奉納奉告祭
- 二十三日 房地組合
- 二十四日 防災訓練
- 笠間稻荷門前講
- 二十五日 初天神祭
- 正徳講・株ナテック
- 二十六日 全建柄建労那須支部
- 下三ヶ尾笠間講・弥栄講
- 二十七日 東宝上町講
- 三十日 旧大祓式
- 三十一日 旧歳旦祭



## ◆二月

- 一日 野中組稻荷講・堀の内組
- 二日 結婚式 松田家×宮田家
- 三日 登渡神社宮司星次百太郎様
- 四日 共榮講・太木講・都賀町講・石の葉講
- 五日 初午大祭
- 六日 下古山講・並木町笠間講・阿字ヶ浦保食講
- 川上実行組合・船形観光友の会
- 木間ヶ瀬笠間講・取手市機会工業会
- 大山笠間講
- サカイ会祈願会
- 六日 北方領土返還祈願祭
- 七日 野田市信栄講
- 八日 針供養祭
- 九日 宇夫階神社宮司宮本守也様
- 十日 幸手講
- 十一日 紀元祭
- 十二日 旭市奉贊会・鶴ヶ丸講
- 十四日 祈年祭・初穂講大祭
- 十五日 東京八方講
- 十六日 元町笠間稻荷講
- 中峰笠間講
- 豊田稻荷講
- 野田市蕃昌笠間稻荷講
- 十七日 船形笠間稻荷講
- 東京弥栄講・網戸中宿稻荷講
- 十八日 貴船笠間講
- 十九日 絵馬コンクール審査
- 中野台笠間講
- 二十日 節分祭追儺式
- 廿一日 山高野講
- 廿二日 笠間・友部街商組合



- 共榮講・太木講・都賀町講・石の葉講  
初午大祭  
下古山講・並木町笠間講・阿字ヶ浦保食講  
川上実行組合・船形観光友の会  
木間ヶ瀬笠間講・取手市機会工業会  
大山笠間講  
サカイ会祈願会  
六日 北方領土返還祈願祭  
七日 野田市信栄講  
八日 針供養祭  
九日 宇夫階神社宮司宮本守也様  
十日 幸手講  
十一日 紀元祭  
十二日 旭市奉贊会・鶴ヶ丸講  
十四日 祈年祭・初穂講大祭  
十五日 東京八方講  
十六日 元町笠間稻荷講  
中峰笠間講  
豊田稻荷講  
野田市蕃昌笠間稻荷講  
十七日 船形笠間稻荷講  
東京弥栄講・網戸中宿稻荷講  
十八日 貴船笠間講  
十九日 絵馬コンクール審査  
中野台笠間講



二十二日 甲子祭

野田七親講

結婚式 佐野家×星家  
結婚式 飯田家×星家

二十三日 栃木市笠間会・大相模笠間講  
下落合笠間稻荷講

二十五日 笠間一心講

結婚式 市塚家×池内家

## ◆三月

二日 笠間稻荷高柳講・川口商榮講

八日 上花輪稻荷講

九日 井沼方講・秋山講

十二日 旧初午大祭

向町笠間講・阿字ヶ浦西久保稻荷講

心和講

十六日 絵馬祭

繪馬コンクール表彰式

十八日 柳沢胡桃下稻荷講

二十一日 春季皇靈祭遙拜式

二十三日 幸栄親睦会

二十八日 新入社員研修開始

二十九日 結婚式 大野家×菅野家  
三十日 昭和三十年笠間高校三年A組卒業

結婚式 川村家×須藤家



## ◆四月

一日 氏子総代新任奉告祭

新入社員入社奉告祭  
当社責任役員会・総代会

三日 神武天皇遙拜式

五日 水戸南口一タリークラブ

地区大会エスクカーシヨン斎藤孝夫様  
浦和辻神仰会

六日 思の森稻荷講和田懋様  
大櫻笠間講

九日 例大祭

東京笠間講

十五日 豊四季講・笠間稻荷神社旭講

十九日 東京月島笠間稻荷講・東京丸佐講

二十日 大相撲笠間場所

横綱白鵬関、日馬富士関来社

長心講

十六日 絵馬祭

繪馬コンクール表彰式



## ◆五月

二十七日 東京紋三郎講  
二十九日 昭和祭

四日 手子后神社宮司東俊二郎様  
総代会長石田洋一様

九日 あばれ太鼓会会長斎藤良一様  
潮来口一タリークラブ

八日 稲毛神社敬神婦人会会長斎藤富美子様  
潮来口一タリークラブ

十四日 御田植祭

十一日 上尾笠間稻荷七胡講

東毛敬神講・東京笠間報恩講

十七日 講社大祭

東京胡桃講

十八日 小鹿野笠間講

二十三日 舍人講

三十日 藤裔会東京支部

支部長今田妙子様

## ◆六月

一日 長江建材工業株

小平神明宮二番組代参講

八日 (有)二シ企画

十五日 西秩父笠間講

二十一日 飛翔会

二十二日 車の茅の輪ぐぐり

二十四日 梅森稻荷講

三十日 夏越の大祓式



# 講中を訪ねて 大櫻笠間講



講元  
**山崎 喜代次**

大正15年生まれ（88歳）

趣味：盆栽

元埼玉県新方領土地改良区理事長・元越谷市大袋地区会長他

「若い頃から三度大きな手術をしましたが、その度稻荷神様に助けて戴き、今、元気にして過ごしています。講員の高齢化や後継者不足という問題はありますが、講も家庭と同じです、まずは自分たちから信仰の姿勢を示していくこうと、講役員一丸となって笠間参拝を続けていくつもりです。」

埼玉県越谷市にお住まいの山崎喜代次さんが講元を務める大櫻笠間講は昭和二十七年に地域の方々を中心にご神縁を結ばれた講中です。初代講元・伊原幸之助氏の住む旧大澤地区、二代講元佐藤誠司氏の住む旧桜井地区の地区名から頭文字を取り、大櫻笠間講という講名に決ましたと伝わり、参拝は桜の花が咲く頃、毎年四月初旬に計画されています。講結成以前から初代伊原講元を含む数名で汽車に乗って参拝をされていましたが、大櫻笠間講として活動を始めからはバスを手配しての一泊旅行形式とし、最盛期は講員三〇〇名・バス六～七台での参拝となりました。高速道路等が整備されていない頃は笠間まで片道四～五時間かかりましたが、農業や商売を生業とする人が多く住む地域だったこともあり、五穀豊穣・家内安全・商売繁昌を願つて参加者は年々増加し、稻の種蒔きを終えてから花見を兼ねての講中参拝を講員皆が楽しみにしていたとのことです。

山崎講元は平成三年より今日まで二十年以上講元を務め、講役員と共に講中参拝旅行の企画等を計り、積極的に講活動を続けて来られました。役員の皆さんも「先祖代々の信仰を自然と受け継いでいる」とおっしゃっていましたが、近年は生活スタイルの変化もあり、信仰に限らず昔からのしきたりは薄れてきていると感じることも多く、今後の講元や講役員の後継者を見つけることは課題のひとつ、とのことです。

「信仰心や敬う気持ちは両親や祖父母の姿を見て身につくもの」という考え方から、講員や後継者育成の為にもまず自分たちの信仰の形を見せていくことが大切であると、旅行形式であっても講参拝が済むまでは飲酒を謹むほか、自宅でも神棚のお祀りを欠かさず、地域や家庭に伝わる初午の風習なども守っておられます。

また、世話人の平さんは「昔、従業員数人と笠間へお詣りに行つたその帰りに何件も仕事が入ってきた」、遠藤さんは「手術をした際には稻荷大神様にお祈りし、無事に回復してからは更に一生懸命お礼を申し上げていて」、中島さんは「毎日、大過なく順調に過ごしていることがありがたい」「健康で病気をすることもない日々にご守護を感じる」等稻荷大神様の御神徳を受けられたエピソードや感謝の思いをたくさんお話し下さいました。



▲お忙しい中、取材当日にお集まり頂きました大櫻笠間講役員の皆さん。

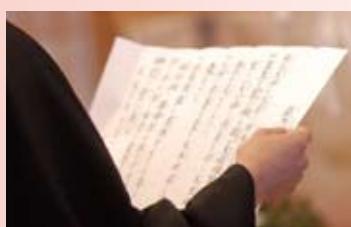
前列左より世話人・遠藤好子さん、講元・山崎喜代次さん、世話人・高橋徳二郎さん。後列左より世話人・中島一雄さん、世話人・平文雄さん。4月の講参拝後に役員が集まり「講返し」と呼ぶ反省会をしておられます。また、1月に親睦会を兼ねた役員新年会を開催し次年度の参拝旅行の計画を立てたり、3月には旅行先へ下見に行ったりと、年間を通じて講運営にご尽力いただいております。

# 日本的心を大切に、想い出に残る神前結婚式

笠間稻荷神社の御祭神・宇迦之御魂神は、生命の根源を掌る「いのち」の根の神様でございます。神前結婚式は、代々受け継がれてきた「いのち」を、これより後もつないでいく約束をする、新郎新婦お二人の人生の大切な節目です。



稻荷大神様の御加護の下、ご両家の絆を固く結び、  
お二人の末永いお幸せを心よりお祈り申し上げます



- 初 穂 料：亀式5万円(雅楽生演奏1名)、鶴式10万円(雅楽生演奏3名、巫女舞あり)  
拳 式 場：社務所内・儀式殿(見学可)、拝殿拳式は斎行致しておりません。  
設 備：披露宴・パーティー会場は併設しておりません。控え室ご両家各1室、更衣室1室使用可。  
撮 影：境内撮影自由、拳式中の撮影は一部制限があります。撮影用の椅子等の貸出は不可。  
衣 装 等：和装・洋装の決まりはありません。衣装はご自身でご用意下さい。  
参 列 者：基本的に親族のみ可、新郎新婦含む30名以内は規定初穂料にて斎行、30名以上は1名毎500円増。  
拳式参列可能人数は両家各18名まで、直会は60名程度まで対応可。いずれも要相談。  
拳式時 間：亀式1時間、鶴式1時間15分程度。祭典日を除き9時～15時の間の希望時間より斎行可。

＜お問い合わせ＞ 笠間稻荷神社社務所 崇敬係(すうけいかかり)  
☎0296(73)0001 9:00～16:00

結婚式のお申し込み・式場のご見学・ご相談等でご来社の際は、前日までにご連絡下さい。  
祭事等の都合によりご案内致しかねる場合がございますので、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

秋の笠間を華やかに彩る日本最古の菊の祭典

日本三大稻荷 笠間稻荷神社

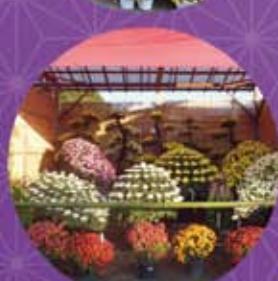
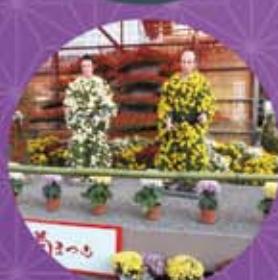
# 大菊人形花会展

平成26年

10月18日土→11月24日月

8時半～16時半（入場は16時まで）

第107回  
笠間の菊まつり



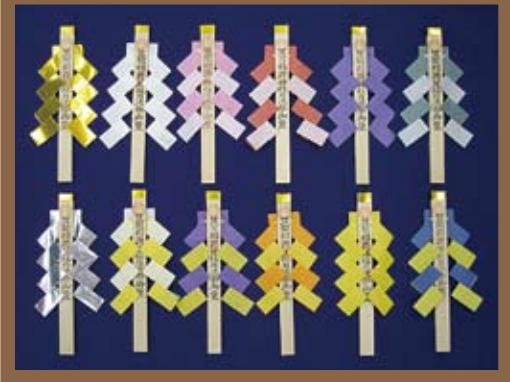
菊人形展  
『軍師官兵衛』



## 月詣り

当社には「月詣り」をされる崇敬篤い方が大勢いらっしゃいます。

月詣りとは、月毎に大神様の御加護を受け、前月よりの平穏無事を感謝し、新たな護神徳を頂くことであります。月詣りの方には神苑に咲く花を表した御幣を授与しております。どの月からでも始めて頂けますので、ご希望の方は受付までお申し出下さい。



## 病氣平癒 祈祷案内

当神社の御祭神は宇迦之御魂神（うかのみたまのかみ）と申しまして、「ウカ」とは「貴い食物」を意味します。つまり宇迦之御魂神とは、「稻に宿る神秘的な精靈」を表し、五穀をはじめ一切の食物を司る神さま、生命の根源を掌る「いのち」の根の神さまです。

当神社では、宇迦之御魂神様の御神徳をいただきまして、ご病氣になられた方のご快癒を願う病氣平癒の御祈祷を行つております。皆様が健やかで平穏な毎日を送れますよう、心よりお祈り申上げます。

（初穂料 五千円より）

当社ホームページからもご祈祷のご予約が頂けます。

◎ホームページ

<http://www.kasama.or.jp/>

笠間稻荷神社

検索

## 奉納募集

当社では威儀物や祭典に用いられる祭具のご奉納をお受け致しております。ご奉納頂ける方は笠間稻荷神社社務所までご相談下さい。ご奉納頂いた方の御名は末永く顕彰させて頂きます。また、これまでにご奉納頂きましたご崇敬者の皆様に厚く御礼申し上げます。



◎奉納者芳名  
〔錫銚子 一対〕

澤部 美希 殿

今回は名店揃いの笠間稻荷神社門前通りの御食事処をご紹介させていただきます。笠間稻荷神社にお越しの際は、ぜひ笠間稻荷神社門前通りの絶品グルメをご堪能ください。



5

## 5 仲見世玉起屋

つぶあん、野沢菜、きりほし、きのこ、じゃがいも、かぼちゃと6種もある門前おやきが名物です。



6

## 7 たちばな

あんことカスタークリームをバター風味のカステラ生地で包んだバターまんじゅうをお土産にどうぞ。



7

## 6 福嶋屋

第二十一回全国菓子大博覧会で  
んこの味で名誉大賞を受賞したお  
饅頭屋さんです。手作りのため、一日  
百個限定となります。



## 8 ほんまや

甘味とかわいい小物のお店。ゆばと豆乳のやさしい風味が売りのゆばアイスをぜひご堪能下さい。



14

15

16

17

18

## 14 ニツ木

稻荷寿司専門のお店。ほどよい酢のシャリ、甘めの揚げ、サクッとした歯触りのクルミの3つのハーモニーが調和した胡桃いなり寿司がおすすめ。



## 15 きむらや

自家製の油揚げを使ったそば稻荷がおすすめのお蕎麦屋さん。他にも約10種類のいなり寿司が楽しめます。お土産にもぜひどうぞ。



## 16 松月庵

創業九十余年老舗の味を守っているお蕎麦屋さんです。お蕎麦は生粉打ち蕎麦といい、石臼引きした蕎麦を使っています。



## 17 中屋総本店

江戸半ばに創業され、店主は18代目のお饅頭屋さんです。名物はふくまんじゅうといい、当時のおかみさんがおふくさんということが由来だそうです。



## 18 zakka&café ラ・ミディ

ハワイ好きな店主が営むカフェです。5~10月限定のハワイより直輸入のシロップとフワフワの氷を使用したハワイアンシェイプアイスがオススメです。



# 笠間縮荷神社門前通り

## 1 つたや

全国初そば稻荷を開発した老舗のお蕎麦屋さん。地元茨城のそば粉「常陸秋そば」を使ったそば稻荷が絶品です。



## 2 つの国や

地場産の舞茸入りのそば稻荷が名物のお蕎麦屋さんです。他に丼物もやっております。



## 3 柏屋

アットホームな雰囲気のお蕎麦屋さん。笠間のご当地キャラいな吉が描かれた分厚い油揚げが乗ったお蕎麦がおすすめです。



## 4 仲見世丸井

茨城県産のこしひかりと茨城のおいしい水を使った稻荷せんべいが名物です。かき氷などもあります。



1

2

3

4

## 9 中華食堂えん

台湾のポピュラーな屋台ラーメンを再現した牛角煮麺が一押しの中華食堂。お昼と夕方～夜までの営業となります。



## 10 湊屋

コロッケはカレー風味です。他にも特製メンチや串カツ、トンカツなどの揚げ物がたくさんあります。



## 11 鍋屋

粉からではなく、炊いたお米から直接作ったお団子はコシのある食感が特色で、芳醇なみたらしのたれと相性バツグン。



## 12 笠目宗兵衛商店

日本酒とお酒を使ったお菓子のお店。このお店の銘柄松緑を使った松緑ゼリーは冷やすとよりおいしく、これから時期にピッタリ。



## 13 吉田屋

創業してから70年経つ饅頭屋さんです。名物は胡桃入りの饅頭を油でカリカリカリッと揚げた胡桃饅頭です。



9

10

11

12

13



# 神社のいろは



**Q** 六月に神社にお参りしました。参道に置いてあつた大きい輪は何ですか？

**A** 茅で編んだ「茅の輪」<sup>（ちのわ）</sup>といい、六月の晦日に斎行される「大祓式」に用いられます。「茅の輪」を、8の字を描く様に左・右・左の順序にて三回ぐぐり、祓い清めます。

**Q** 「大祓式」とはどのようなお祭りですか？

**A** 大祓式は飛鳥時代の大宝律令(七〇一年)によつて国家的規模の行事として制定され、日々の生活の中で知らず知らずのうちに犯した罪穢れを祓い清め心身共に新しい生活の出発を祈る神事として六月(夏越の大祓式)と十二月(年越の大祓式)に斎行されます。

紙で出来た人形<sup>（ひとがた）</sup>に氏名・年齢・生年月日を書き込み、その人形で身体を撫で、息を二回吹きかけて罪穢れを移し、大祓式を執り行います。神事の後、所役の手により人形を大海原に祓い去ります。

**Q** 佐白山麓の稻荷神社外苑駐車場にある大きな茅の輪は何に使うのですか？

**A** 夏越の大祓式の一環として行つている「車両の茅の輪ぐぐり」です。この神事は、交通安全の意識高揚を目的としており、毎年六月下旬の月曜日に斎行されます。

どなたでもご参加頂けます。お初穂料はお車一台につき千円です。

その他、ご質問等ございましたら、神社社務所までお問い合わせ下さい。

笠間稻荷神社社務所

☎ 0296(73)0001



笠間稻荷神社

社報「胡桃」No.33 平成26年6月発行 発行所／笠間稻荷神社社報編集委員会 茨城県笠間市笠間1番地  
電話0296(73)0001代 FAX0296(73)0002 テレホンサービス0296(73)0003ホームページhttp://www.kasama.or.jp/  
Eメールinfo@kasama.or.jp 編集発行人／塙 東男 本誌の写真、イラストレーション、記事の無断転載を禁じます。